

公益財団法人日本郵趣協会

2025年度事業報告

【事業活動の総括】

公益財団法人日本郵趣協会（以下、当協会）は、日本及び世界各国の郵便切手類の歴史および郵便制度の研究（以下「郵趣」という。）を通して、郵便切手文化の向上発展に資するとともに未来へ継承していき、もって心豊かな潤いのある社会創造に寄与することを目的として活動を行っている。2025 年度においても、2022 年度から掲げている「郵趣の深耕」「郵趣のダイバーシティ拡大」「郵趣のバリアフリー化」の3つの基本方針に基づき事業を推進した。なかでも、郵趣の楽しみ方を広げ、新たな層に郵趣への関心を持っていただくため、「郵趣のダイバーシティ拡大」に重点を置いて事業を展開した。

STAMP-SHOW では、自由な発想による展示を可能とする「郵趣 MY コレクション展」を新設した。展示に必要な形式的要件のみを定め、作品内容については自由な発想で作ることを認め、推奨した結果、50 作品 111 フレームもの多くの出品を得ることができた。これは多様な郵趣活動への関心の高まりを示すものであり、新たな郵趣の潮流の萌芽も感じられる成果となった。

また、「タイムカプセル郵便」については、事業目的や運営方法を抜本的に見直した。小・中学校での教育活動や一般向けイベントでの活用を通じて、若年層や普段郵便を利用する機会の少ない方々に郵便や手紙の魅力を体験していただく事業として再構築し、保管体制の整備と制度設計の見直しを行ったうえで事業を再開した。再開初年度においても順調に利用を得ることができ、郵便文化・手紙文化の振興に寄与する事業として継続の基盤を整えることができた。

さらに、郵便文化・手紙文化の振興に資する本格的な取り組みとして、2026 年度開催の「文具&手紙マルシェ」の企画・準備を進めた。本イベントは「手紙好きのための文具イベント」をコンセプトとし、手紙を愛好する方々に文具を通じた新たな楽しみを提供するとともに、STAMP-SHOW との同時開催により幅広く郵趣の世界に触れていただく機会を創出するものである。

これらの取り組みを通じて、郵趣の新たな楽しみ方や参加の形を提示し、郵趣振興の裾野を広げることができた。これは当協会の公益目的の実現に向けた重要な一歩であり、今後の持続的な郵趣振興につながる基盤づくりとなった。

また、協会運営の基盤強化を図るため、以下に示すガバナンスおよびコンプライアンスの充実に向けた取り組みを進めた。

【運営体制の充実を図るための取組】

1. 利益相反取引等に対するチェック体制強化

理事会における取引に係る報告及び外部専門家の活用とともに、経理・財務部門を業務分担制とした。

2. 理事及び評議員の選任機関見直し

各機関別における選任方法に係る規程改正に着手した。

3. 中期ビジョンの策定

財政健全化3ヵ年計画を策定し、目標に向けて各事業に取り組んだ。

I 公益目的事業

1. 普及啓発事業

万国郵便連合(UPU)加盟約190の国・地域から発行されている郵便切手類が持つ歴史、美しさ、芸術性といった文化的価値を広く社会一般に認識してもらうため、楽しみながら知ることのできる機会を創出した。また、郵便切手文化を次世代に継承するため、質の高い情報を積極的に提供するとともに幅広い分野で普及啓発活動や情報発信を実施した。

(1) 「全国ミニ切手展」キャンペーン

年間を通じて全国の郵便局、学校、博物館など公共施設を中心として、日本及び世界各国の郵便切手類を展示する「全国ミニ切手展」を333カ所(前年度331カ所)で開催した。特に4月の「切手趣味週間」(切手趣味週間の切手発行日から1週間)の期間はキャンペーンを実施するとともに、多数開催の個人・団体を表彰した。

(2) 「郵趣入門ガイドブック」

郵便切手類の入手・保存・楽しみ方についてわかりやすく解説した、「郵趣入門ガイドブック」の新規版「知っておこう 郵頼のしかたガイド」を制作した。全国規模の展覧会及び地方本部主催の展覧会において配布するとともに、公式ホームページに掲載して普及啓発活動を展開した。

① 「郵趣スタートガイド～初めて郵趣を楽しむ方に～」

② 「郵趣リーフ作成ガイド～初めてのトピカル・リーフ作り～」

③ 「日本切手で始めるスタートガイド」

④ 「知って得する切手入手ガイド」

⑤ 「やさしい郵趣用語集」

⑥ 「トピカル郵趣 作品制作ガイド」

⑦ 「テーマティック郵趣 作品制作ガイド」

⑧ 「楽しく切手を集めよう！」

⑨ 「知っておこう 郵頼のしかたガイド」

(3) 切手ワークショップ

①切手ワークショップ「入門コース・作品コース」

会場は切手の博物館(豊島区)とし、最終回の[4月度]はSTAMP-SHOW2026(台東区)で開催した。

[6月度] 内容：切手など郵趣品の集め方、整理の仕方、開催日：6月21日(土)、参加者：4名

[9月度] 内容：マイリーフ作成ガイド、開催日：9月20日(土)、参加者：8名

[11月度] 内容：マイリーフ作成実習、開催日：11月15日(土)、参加者：9名

[1月度] 内容：マイリーフ作成実習、開催日：2026年1月17日(土)、参加者：12名

[2月度] 内容：アルバムリーフ作成、開催日：2026年2月14日(土)、参加者：6名

[4月度] 内容：アルバムリーフの展示のみ実施、開催日：2026年4月11日(土)、参加者：6名

(4) 機関誌『郵趣』

郵便切手文化に関する幅広い情報の提供、郵便切手類及び郵便制度に関する文化的知見の普及を図るとともに、当協会の事業活動の報告等を公開して当協会への参加意識を高めるため、機関誌『郵趣』を企画・監修し、頒布した。

(5) 公式ホームページ、SNS

情報公開の重要性に鑑み、切手発行情報、展覧会、出版物及び文化シンポジウム等に関する最新情報を公式ホームページ及びSNSに適時掲載し、幅広く社会一般に公開、提供した。また、Web会議「オンライン郵趣」を開催し、リアルとデジタルを連動させたハイブリッド型の普及促進を図った。

(6) 全国郵趣大会

全国各地における郵趣活動の結びつきを図り、課題の共有・活用の推進を図るため、全国郵趣大会を開催した。併せて、功労者の顕彰、記念レセプションを開催した。

① 全国郵趣大会2025in長崎(第43回/併設：九州STAMP-SHOW2025 in長崎)

会期：9月27日(土)・28日(日)、会場：ホテルセントヒル長崎(長崎市)。参加者57名、内容：記念式典、顕彰事業セレモニー、記念講演、分科会、寄贈品オークション。企画・運営：九州・沖縄地方本部、長崎支部。

② 全国郵趣大会2026in大阪(第44回) [準備作業]

会期：8月1日(土)・2日(日)、会場：OMMビル(大阪市)、後援：日本郵便(株)近畿支社[予定]、企画・運営：関西地方本部

(7) 切手のつどい

郵便切手文化に関する情報の発掘、収集を行うとともに、その結びつきを図り、地域市民の資源として共有・活用する基盤作りのため、誰でもが参加・交流できる「切手のつどい」を開催した。

① 福山切手のつどい2025春

会期：4月27日(日)、会場：まなびの館ローズコム[福山市生涯学習プラザ](広島県福山市)、参加者50名(前年度53名)、主催：中国・四国地方本部、福山支部

② 岡山切手のつどい2025

会期：6月22日(日)、会場：岡山国際交流センター(岡山市)、参加者46名(同50名)、主催：中国・四国地方本部、岡山支部

③ 防府切手のつどい2025夏

会期：7月27日(日)、会場：防府市創業・交流センター[デザインプラザHOFU](山口県防府市)、参加者70名(同80名)、主催：中国・四国地方本部、防府支部

④ 福山切手のつどい2025夏

会期：8月23日(土)、会場：まなびの館ローズコム[福山市生涯学習プラザ](広島県福山市)、参加者48名(同48名)、主催：中国・四国地方本部、福山支部

⑤ 筑後地方切手のつどい2025

会期：8月24日(日)、会場：小郡市生涯学習センター(福岡県小郡市)、参加者31名(同35名)、主催：九州・沖縄地方本部、小郡支部

⑥ 関西郵趣家のつどい2025(切手だいすき集まれ!!)

会期：11月8日(土)、会場：大阪市立社会福祉センター(大阪市)、参加者65名(同321名)、主催：関西地方本部

⑦ 防府切手のつどい2026冬

会期：2026年1月25日(日)、会場：防府市創業・交流センター[デザインプラザHOFU](山口県防府市)、参加者70名(同70名)、主催：中国・四国地方本部、防府支部

⑧ 北九州切手のつどい2026

会期：2026年2月8日(日)、会場：北九州AIMビル(福岡県北九州市)、参加者40名(同50名)、主催：九州・沖縄地方本部、北九州支部

⑨ 広島切手のつどい2026

会期：2026年2月15日(日)、会場：広島南区民文化センター(広島市)、参加者80名(同80名)、主催：中国・四国地方本部、広島鯉城支部

2. 展覧会事業

郵便切手類及び郵便制度に関する研究を発展させるとともに、作品を鑑賞することにより豊かな情操を養い郵便切手文化に理解を深めるため、展覧会を開催した。また、文化シンポジウム・イベント等を企画・実施してPR効果を高め、集客の増加を図った。

(1) 全国規模の展覧会

①世界切手まつり STAMP-SHOW2025(第49回)

企画展示「昭和100年」展、非競争切手展「郵趣MYコレクション展2025」の出品物を公募した。

会期：4月11日(金)～4月13日(日)、会場：東京都立産業貿易センター台東館(台東区)、来場者：12,600名(前年度11,000名)。特別協賛：日本郵便(株)、協賛：(株)伊藤園、えにし書房(株)、加藤憲G.R.S(株)、(株)鼓月、(株)日本郵趣出版、(株)不二家、町田酒造(株)、協力：切手の博物館、郵政博物館、日本郵便切手商協同組合。競争出品：郵趣MYコレクション展2025:a.郵便切手部門30作品81フレーム、b.フリースタイル部門20作品30フレーム。切手商ブース：22店29ブース(同19店23.5ブース)。

②世界切手まつり STAMP-SHOW2026(第50回) [準備作業]

企画展示「さくら・桜・サクラ～切手で花を咲かせましょう～」、「郵趣MYコレクション展2026」の準備作業、会期：2026年4月10日(金)～4月12日(日)、会場：東京都立産業貿易センター台東館(台東区)、特別協賛：日本郵便(株)、協賛：(株)伊藤園、えにし書房(株)、加藤憲G.R.S(株)、(株)鼓月、(株)日本郵趣出版、(株)不二家、町田酒造(株)、協力：切手の博物館、郵政博物館、日本郵便切手商協同組合。

②第60回全国切手展(略称:JAPEX2025)

企画出品「日露戦争勝利120年」、「デンマーク切手展」、「PHILAKOREA2025 凱旋展」の開催、チャンピオン・クラス、伝統郵趣、郵便史、ステーションナリー、航空郵趣、テーマティック、ユース、文献、ワンフレーム、オープン、その他の全11クラスの競争出品を公募した。本展覧会において金銀賞以上を受賞した作品には、国際郵趣連盟(FIP)主催の国際切手展への出品資格が付与された。併せて、公式ガイドブック等を発行して、研究発表の成果を広く一般に公開した。

会期：10月31日(金)～11月2日(日)、会場：東京都立産業貿易センター台東館(台東区)、入場者：4,000名(前年度3,300名)、後援：外務省、文部科学省、在日デンマーク王国大使館、東京新聞、協賛：日本郵便(株)、(株)伊藤園、加藤憲G.R.S(株)、(株)鼓月、信和グループ、(株)日本郵趣出版、(株)町田酒造、協力：(公財)通信文化協会、(一社)全日本郵趣連合、日本郵便切手商協同組合

企画出品：「日露戦争勝利120年」7作品38フレーム、「デンマーク切手展」4作品16フレーム、「PHILAKOREA2025 凱旋展」2作品16フレーム、競争出品：80作品269フレーム(前年度87作品265フレーム)。外国郵政ブース：3カ国(ポルトガル、ハンガリー、チェコ)、切手商ブース：20店26.5ブース(同20店26.5ブース)。

(2) 地方本部主催の展覧会

①アスピラート防府切手展2025

会期：4月18日(金)～20日(日)、会場：アスピラート[防府市地域交流センター](山口県防府市)、来場者：150名。主催：中国・四国地方本部、山口郵趣会

②スタンプショウ広島2025

会期：5月17日(土)・18日(日)、会場：広島県立産業会館(広島市)、来場者：480名(前年度450名)。特別展示：「旧小判切手1876-1879」他、企画展示：フランス、一般：36作品82フレーム、切手商ブース：7店7ブース(同7店7ブース)、郵趣講演会：「海外の郵趣事情～国際切手展、郵趣会、オークションなど」佐藤浩一氏、主催：中国・四国地方本部、スタンプショウ広島実行委員会

③STAMP-SHOW in横浜2025(第15回)

会期：5月17日(土)・18日(日)、会場：かながわ県民センター(横浜市)、来場者：330名(同330名)。主

催：関東地方本部、横浜支部、相模原支部、湘南郵趣の会

④STAMP-SHOW in徳山2025

会期：6月14日(土)、会場：徳山保健センター(山口県周南市)、来場者：100名(同100名)。主催：中国・四国地方本部、周南支部

⑤関西STAMP-SHOW2025

会期：8月2日(土)・3日(日)、会場：大阪マーチャンダイズ・マートビル[OMMビル](大阪市)、来場者：280名(同470名)。企画テーマ：「空と宇宙」、切手商ブース：7店7ブース(同8店8ブース)、主催：関西地方本部

⑥九州STAMP-SHOW2025 in長崎

会期：9月27日(土)・28日(日)、会場：ホテルセントヒル長崎(長崎市)、来場者：220名。主催：九州・沖縄地方本部、長崎支部

⑦STAMP-SHOW inかごしま2025

会期：10月4日(土)・5日(日)、会場：サンプラザ天文館(鹿児島市)、来場者：120名(同130名)。主催：九州・沖縄地方本部、鹿児島支部。後援：日本郵便(株)九州支社、南日本新聞社、NHK鹿児島放送局、MBC南日本放送、KTS鹿児島テレビ、KKB鹿児島放送、KYT鹿児島読売テレビ、エフエム鹿児島、鹿児島シティエフエム

⑧中部STAMP-SHOW2025 in長岡

会期：10月4日(土)・5日(日)、会場：まちなかキャンパス長岡(長岡市)、来場者：30名(同240名)。主催：中部地方本部、長岡支部。

⑨STAMP-SHOW inはかた2025

会期：10月18日(土)・19日(日)、会場：TKPカンファレンスシティ博多(福岡市)、来場者：140名(同160名)、切手商ブース：2店2ブース(同6店6ブース)。主催：九州・沖縄地方本部、福岡支部。後援：日本郵便(株)九州支社、福岡市教育委員会、RKB毎日放送、九州朝日放送、FBS福岡放送局、TVQ九州放送、テレビ西日本、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、西日本新聞社。主催：九州・沖縄地方本部、福岡支部

⑩STAMP-SHOW in高松2025

会期：11月15日(土)・16日(日)、会場：アイパル香川[香川国際交流会館](香川県高松市)、来場者：60名(同70名)、主催：中国・四国地方本部、高松支部

⑪大阪春の切手展2026 in 京セラドーム大阪スカイホール

会期：2026年3月7日(土)・8日(日)、会場：京セラドーム大阪スカイホール(大阪市)、来場者：340名(同320名)、企画テーマ：「観光」、切手商ブース：5店5ブース(同6店6ブース)、主催：関西地方本部

(3) 展覧会への出品促進

①郵趣MYコレクション展の応募ガイド・PDF入力フォームを作成し、出品希望者への及びホームページにおいて公開した。

②「JAPEX2025ルールブック」(JAPEX2025開催概要、JAPEX2025特別規則、JAPEX一般規則、JAPEX審査基準、JAPEX出品に関するQ&A等)を作成し、出品希望者への配布及びホームページにおいて公開した。

③新規出品者の育成及び出品コンサルティングの実施

対面及び通信添削により作品コンサルティングを実施した。JAPEX新規出品者：5名(前年度5名)、出品コンサルティング利用者：7名(同8名)。

④クリティークの実施

実施日：11月2日(日)、会場：第60回全国切手展JAPEX2025[東京都立産業貿易センター台東館(台東区)]、参加者：22名(同13名)。

(4) 公認審査員制度と審査員の育成

コンクール形式の展覧会において適正な判定と円滑な運営を行うため、公認審査員制度を活用して国内審査員の育成を図った。また、審査実務に関する郵趣セミナーを開催するとともに、世界の展覧会の潮流と審査の状況を有資格者と共有し、審査技術の向上と平準化を図った。

3. 出版事業

郵便切手類及び郵便制度に関する情報を社会一般に広く供するため、郵便切手類に関するデータ並びに郵便制度に関する学術研究を基に、各種出版物の発行及び監修を行った。

(1) 定期刊行物の発行

- ①週刊速報紙『郵趣ウィークリー』週刊／50回発行
- ②郵趣専門誌『郵趣研究(The Philatelic Studies)』隔月刊／6回発行
- ③WEB版『世界新切手ニュース』月刊／12回配信
- ④WEB版『郵趣ウィークリー』週刊／50回配信
- ⑤WEB版『郵趣研究(The Philatelic Studies)』隔月刊／6回配信

(2) 切手カタログの監修

- ①『さくら日本切手カタログ2026』(4月20日発行)

4. 学術調査研究事業

郵便切手文化に関する研究成果を広く社会一般に還元するため、活動事例紹介、研究発表会(ミニペックス)、郵趣カンファレンス、文化シンポジウム等を開催した。

(1) 研究会

専門分野別に研究会を設置して学術調査研究の充実・発展を図るとともに、未分野の研究会発足を促進するため、主として切手の博物館(豊島区)において月例会を延べ164回開催した。また、オンライン月例会を開催し、全国の専門収集家との交流、研究成果の共有に努めた。

(2) 研究発表会(ミニペックス)

研究会による学術調査研究成果の発表会を「ミニペックス」と称して、切手の博物館(豊島区)において広く一般に公開した。研究発表会では、研究作品の背景と郵趣の本質を分かりやすく説明する作品解説等を実施した。[研究発表名は予定]

①アメリカ切手展2025 america'25

会期：5月10日(土)～5月11日(日)、来場者：140名(前年度130名)、研究発表：アメリカ郵趣研究会、後援：アメリカ大使館

②第38回昆虫切手展

会期：6月7日(土)・8日(日)、来場者：220名(同160名)、研究発表：昆虫切手研究会

③イギリス切手研究会切手展2025

会期：6月21日(土)・22日(日)、来場者：150名(同160名)、研究発表：イギリス切手研究会、後援：(一社)日英協会

④第14回世界の植物切手展

会期：7月4日(金)～7月6日(日)、来場者：200名(同230名)、研究発表：植物切手研究会

⑤訪欧飛行100周年記念JPS航空郵趣研究会展 AEROPEX2025

会期：9月26日(金)～28日(日)、来場者：430名(同250名)、研究発表：航空郵趣研究会

⑥第22回震災切手と震災郵趣展

会期：10月4日(土)～10月5日(日)、来場者：90名(同140名)、研究発表：震災郵趣研究会

⑦第22回絵画切手展

会期：10月25日(土)・26日(日)、来場者：180名(同210名)、研究発表：絵画切手研究会

⑧ヨハン・シュトラウスⅡ生誕200年記念音楽切手展

会期：11月8日(土)・9日(日)、来場者：210名(同270名)、研究発表：音楽切手研究会

⑨第18回聴覚障害者切手研究会切手展

会期：11月15日(土)・16日(日)、来場者：140名(同150名)、研究発表：聴覚障害者切手研究会

⑩北欧切手展NORDEX2025

会期：11月29日(土)・30日(日)、来場者：250名、研究発表：北欧切手研究会

⑪第10回関東郵趣サロン 楽しい切手展

会期：2026年1月23日(金)～1月25日(日)、来場者：230名(同220名)、研究発表：関東郵趣サロン研究会

⑫ドイツ・オーストリア切手展 Germania2026

会期：2026年3月6日(金)～8日(日)、来場者：170名(同180名)、研究発表：ドイツ切手研究会

⑬第17回テーマティック研究会切手展

会期：2026年3月14日(土)・15日(日)、来場者：170名(同180名)、研究発表：テーマティック研究会

⑭パソコン郵趣切手展2026

会期：2026年3月21日(土)・22日(日)、来場者：190名(同150名)、研究発表：パソコン郵趣研究会

(3) 郵趣カンファレンス

各専門分野の先進学術事例の調査研究を進めるとともに、その知見を相互に有効活用するため郵趣カンファレンスを開催し、出版物等を活用して学術事例を発表・公開した。

①高崎郵便馬車会社と明治日本のシルクロード

会期：2026年3月15日(日)、スピーカー：内藤陽介氏(テーマティック研究会)、聴講者25名、会場：切手の博物館(豊島区)。

(4) 文化シンポジウム

講演会、パネルディスカッション、トークショー等の多様な形式により文化シンポジウムを開催し、知見の交換を図るとともに多くの人が参加できる機会を創出した。

①会期：4月11日(金)～4月13日(日)、会場：STAMP-SHOW2025／東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。

A. 講演会「ビルマ／ミャンマーの切手・郵便」、講師：内藤陽介氏、聴講者60名。

B. 講演会「蛇と戦争」、講師：内藤陽介氏、聴講者75名。

C. トークショー「おいしいにっぽんシリーズ完結」、講師：吉川亜有美氏(日本郵便(株)切手デザイナー)、池澤克就氏、聴講者50名。

D. トークショー「切手蒐集と日本の経済学者たち」、講師：田中秀臣氏(上武大学教授)、聴講者130名。

②会期：5月17日(土)、会場：STAMP-SHOW2025in広島／県立広島産業会館(広島市)。

A. 講演会「海外の郵趣事情～国際切手展、郵趣会…」佐藤浩一氏(FIP登録審査員)、聴講者32名。

③会期：9月27日(土)、会場：全国郵趣大会2025in長崎／ホテルセントヒル長崎(長崎市)。

A. 講演会「ニコラエフスキのキング 島田元太郎の生涯」、講師：立山一郎氏、聴講者15名。

B. 講演会「封書10円時代の記念切手を製造面で楽しむ」、講師：永吉秀夫氏、聴講者15名。

C. 講演会「ジャポニカ切手と遊ぶ」、講師：和田進氏、聴講者10名。

④会期：10月31日(金)～11月2日(日)、会場：第60回全国切手展JAPEX2025／東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。

A. 講演会「乃木と東郷の昭和史」、講師：内藤陽介氏、聴講者30名。

B. 講演会「戦役絵はがきにみる通信省の記録について～人気と内情から読み解く魅力～」講師：村山

隆拓氏(郵政博物館資料センター学芸員)、聴講者20名。

C. 講演会「1935年のアンデルセン切手」、講師:内藤陽介氏、聴講者25名。

D. 講演会「『日本凹版切手図鑑一心に残る至高の50枚』刊行記念」、講師:板橋祐己氏、聴講者40名。

E. トークショー「日本とフィンランド 切手発行協力の思い出」、ゲスト:中丸ひとみ氏(元・日本郵便(株)切手デザイナー)、木村正裕氏(元・フィンランド大使館商務官)、聴講者65名。

F. トークショー「『切手趣味への招待シリーズ第2集』エピソードトーク」、ゲスト:丸山智氏(日本郵便(株)切手デザイナー)、聴講者40名。

G. トークショー「高市・トランプの時代で切手収集する経済学者の話」、講師:田中秀臣氏(上武大学教授)、内藤陽介氏、聴講者140名。

H. 講演会「日露戦争と切手・郵便」、講師:内藤陽介氏、聴講者70名。

(5) 展覧会助成

郵便切手文化に関する学術研究において、社会的要請及び将来の発展が期待できる研究課題の発表・公開に対して展覧会助成を実施した。[会場はいずれも切手の博物館]

①第8回魚木式郵趣展

会期:4月26日(土)・27日(日)、来場者:100名(前年度120名)、主催:魚木五夫氏

②切手フェスタ2025

会期:5月2日(金)~4日(日)、来場者:320名(同380名)、主催:切手フェスタ実行委員会

③いずみ切手研究会切手展

会期:6月28日(土)・29日(日)、来場者:130名、主催:いずみ切手研究会

5. 国際文化交流事業

日本と海外諸国・地域との文化活動の交流を図り、友好関係と相互理解を増進するため、自国の歴史・文化を伝える「小さな外交官」と形容される郵便切手類を通して、国際文化交流を推進した。

(1) 国際切手展における国際文化交流

国際切手展の視察、国際郵趣セミナー等の参加を通じて、海外諸国・地域の郵趣家とのネットワークの形成・強化を図るとともに、国際文化交流を契機とした新たな郵便切手文化の研究を推進した。

①国際切手展「PHILAKOREA 2025」の視察

会期:9月17日(水)~9月21日(日)、会場:COEX麻谷(韓国・ソウル)

(2) 各国郵政機関及び海外郵政組織との協働による国際文化交流

海外郵政機関の協力を得て、文化イベント等を企画・実施してPR効果を高め、国際文化交流の活性化に努めた。

①会期:4月11日(金)~4月13日(日)、会場:STAMP-SHOW2025/東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。エストニア、サンマリノ、ルーマニアの各郵政より記念消印のデザイン提供。

②会期:10月31日(金)~11月2日(日)、会場:第60回全国切手展JAPEX2025/東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。ポルトガル、ハンガリー、チェコの各郵政より記念消印のデザイン提供。

6. 流通促進事業

文化的及び歴史的資料として貴重な国民的財産である郵便切手類を拡散・劣化させることなく、次世代へ着実に継承するため、流通促進事業を実施した。

(1) 流通促進の基盤整備

郵便切手類の偽造品・変造品の不正流通を防止するため、情報をデータベースとして蓄積するとともに、郵便切手文化の保全と健全なる市場の形成を図り、広く利用者の便宜性と拡大に努めた。

(2) 文化インフラの構築

郵便切手文化を広く一般社会に敷衍するとともに、郵便切手類への不当な投機的流通を防止し、郵便切手類の価値の公正化を図るため、その文化インフラを構築した。

①コレクション大処分市制度

郵便切手類の需要開拓と安定供給を図る展示即売会を通して、多様な市民が公平に郵便切手類を再活用できる基盤と公共的インフラを支援した。全国規模のイベントと連携し、郵趣品の公正な流通と、集客を含む市場の活性化、流通網の拡充を図った。

A. 4月11日(金)～4月13日(日)、会場：東京都立産業貿易センター台東館(台東区)

B. 10月31日(金)～11月2日(日)、会場：東京都立産業貿易センター台東館(台東区)

②使用済み切手&書き損じはがきの募集及び社会的活用

7. 顕彰事業

日本及び世界各国の郵便切手類及び郵便制度に関して、その普及啓発並びに学術研究に貢献した功労者(個人及び団体)を顕彰し、郵便切手文化の振興と水準高度化を図った。

(1) 選考委員会

各授賞要項に基づき各選考委員会を設置するとともに、選考基準に基づき授賞者を選考した。

①第46回中島健蔵・水原明窗記念賞

中島健蔵・水原明窗記念賞選考委員会(委員長:山田廉一)を設置し、4月12日(土)に選考委員会を開催、受賞者に内藤陽介氏、山本勉氏を決定した。

②国際大賞(トレーシー・ウッドワード記念賞)

顕彰選考委員会(委員長:山田廉一)を設置し、7月2日(土)に選考委員会を開催、Mr. Keneth Kamholtz氏に決定した。

③第45回郵趣活動賞(個人部門、団体部門)

同上の選考委員会を設置し、次の通り決定した。

A. 個人部門:加藤久勝氏、高安紀彰氏、松井恒雄氏、の3名

B. 団体部門:菊・田沢切手研究会

④第45回郵趣文献賞

同上の選考委員会を設置し、受賞文献に次の文献を決定した。

「陸・海・空 手紙を運ぶ イギリス郵便の歴史」(星名定雄著)

⑤第42回小倉謙賞

選考委員会(委員長:山口充)を設置し、10月31日(土)に選考委員会を開催し、受賞者に小林有「潜水技術と未来への夢」を決定した。

⑥第40回住野正顕賞

該当作品がなく授賞を見送った。

⑦第5回手嶋康賞

選考委員会(委員長:山口充)を設置し、10月31日(土)に選考委員会を開催し、受賞者に栗篤吉「昭和11～31年用年賀切手」を決定した。

⑧登録支部・団体50周年特別表彰

5月24日(土)に事業執行会議(議長:山田廉一)を開催し、2025年度の表彰に城北郵趣会、湘南郵趣の会、吹田千里支部、松本郵趣会の4団体を決定した。

(2) 授賞式

表彰は授賞式をもって行うとともに、選考結果は機関誌『郵趣』及びホームページにおいて公開した。

①第46回中島健蔵・水原明窗記念賞は、第60回全国切手展JAPEX2025において受賞者を発表するとともに、

授賞式を公開で実施した。あわせて受賞記念講演及び作品展示・作品解説を実施した。

②第45回郵趣活動賞(個人部門、団体部門)及び第45回郵趣文献賞は、全国郵趣大会2025in長崎において受賞者を発表するとともに、授賞式を公開で実施した。

③第42回小倉謙賞、並びに第5回手嶋康賞は、第60回全国切手展JAPEX2025において受賞者を発表するとともに、授賞式を公開で実施した。

④登録支部・団体50周年特別表彰は、全国郵趣大会2025in長崎において受賞支部・団体を発表するとともに、表彰式を公開で実施した。

8. 社会貢献・地域支援事業

パートナー・サポート企業・団体との協働により広く社会一般に貢献する事業を行うとともに、登録支部・団体及び公益活動への支援を行い、ボランティアの醸成と創造性豊かな人材育成に取り組んだ。

(1) 「手紙を書こう！プロジェクト2025」

①タイムカプセル郵便

募集期間：2025年4月1日(火)～2026年3月31日(火)

保管及び差出業務を継続した。

※日本郵政(株)の登録商標使用許諾事業

②ゆうびんde自由研究・作品コンテスト2025(第14回)

作品発表会：8月24日(日)、会場：アットビジネスセンター(豊島区)、来場者100名。後援：文部科学省、(公社)日本PTA全国協議会、全国市町村教育委員会連合会、全国連合小学校長会、日本私立小学校連合会、豊島区教育委員会、読売KODOMO新聞、特別協賛：日本郵便(株)、協賛：(株)デサント、リソー教育グループ。応募作品：切手部門：24作品(2024年度25作品)、風景印部門：339作品(同356作品)、優れた作品に文部科学大臣賞及び特別賞(5協賛企業・団体)を授与した。

③「Letter Park」、切手デザイナーとの連携

A. 『Letter Park』への情報掲載

毎月：イベント情報、特別掲載：4月号、5月号、7月号、8月号、9月号、10月号、12月号

B. 切手デザイナートーク&サイン会

(a)テーマ：「おいしいこっぽんシリーズ完結」、ゲスト：吉川亜有美氏、会期：4月12日(土)、会場：東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。

(b)テーマ：『「切手趣味への招待シリーズ第2集」エピソードトーク』、ゲスト：丸山智氏、会期：11月1日(土)、会場：東京都立産業貿易センター台東館(台東区)。

C. 選考委員の派遣

(a)郵趣MYコレクション展2025

選考委員として玉木明氏を招請、選考日：2025年3月13日(木)、選考会場：切手の博物館(豊島区)。

(b)ゆうびんde自由研究・作品コンテスト2025

審査員として星山理佳氏を招請、審査日：8月7日(木)、審査会場：切手の博物館(豊島区)

D. 年賀はがき面白情報

④「切手の博物館」手紙プロジェクトとの連携

A. Otegamiフリマ2025

B. 母の日のおたより2025

C. クリスマスポストカードdeお手紙

(2) 登録支部・団体への支援

①研究発表の支援及び広報協力

地方本部及び登録支部・団体が主催するイベントに、講師の派遣を実施するとともに広報に協力した。

②展覧会及び切手教室への助成

登録支部・団体が開催した展覧会及び切手教室への助成を実施した。

(3) ボランティアの醸成

①郵趣のための押印講習会（技能認定制度）

押印講習会を9回開催するとともに、押印に関する専門的な知識を技術が優秀と認められた方への「押印認定書」(1級～3級)の授与を新たに3名決定した。押印ボランティア登録者:26名、押印認定者:累計45名。

②展覧会運営ボランティアの公募

A. 4月11日(金)～13日(日)開催の世界切手まつりSTAMP-SHOW2025に一般ボランティア17名の応募があり、延べ52名が運営ボランティアとして参加した。

B. 10月31日(金)～11月2日(日)開催の第60回全国切手展JAPEX2025に一般ボランティア13名の応募があり、延べ46名が運営ボランティアとして参加した。

(4) 公益活動への支援

①文具&手紙マルシェ2025

文具&手紙マルシェ2025実行委員会主催の「文具&手紙マルシェ2025」に協力し、周知・広報を行った。会期:4月12日(土)・13日(日)、会場:東京都立産業貿易センター・台東館(台東区)。

②第7回全国切手展スタンペックス・ジャパン2026

郵政博物館、(特非)郵趣振興協会主催の「スタンペックスジャパン2026」に協力、審査員の派遣を行った。会期:2026年3月28日(土)～3月30日(月)、会場:郵政博物館(墨田区)。

③第29回目白ロードレース

目白ロードレース実行委員会主催の「第29回目白ロードレース」に協賛した。会期:2026年3月8日(日)、会場:学習院キャンパス周辺。

9. 公益事業資金の造成

郵便切手文化の向上発展に資するとともに未来に継承する公益事業資金造成のため、幅広く多くの方々から寄附を募るとともに、益金は広く社会一般に還元する事業のために充当する。

(1) 財政安定化寄附金(一般寄附金)

募集期間:2025年4月1日(火)～2026年3月31日(火)、協賛者:4名、35,600円(前年度7名、48,778円)。

(2) STAMP-SHOW2025寄附金(特別寄附金)

募集期間:1月7日(火)～5月31日(土)、特別寄附金:24口(1口3万円)、一般寄附金:337口(1口4,000円)、協賛者:298名、2,071千円(同278名、2,101千円)。

(3) JAPEX2025寄附金(特別寄附金)

募集期間:7月1日(火)～11月2日(日)、特別寄附金:74口(1口3万円)、一般寄附金:423口(1口4,000円)、協賛者:386名、3,993千円(同367名、2,719千円)。

(4) STAMP-SHOW2026寄附金(特別寄附金)

募集期間:1月6日(水)～5月30日(土)、特別寄附金:25口(1口3万円)、一般寄附金:297口(1口4,000円)、協賛者:256名、1,938千円(同297名、2,041千円)。

(5) 特別寄附金の表彰制度(特別表彰、マルティプル表彰、メジャードナー表彰)

STAMP-SHOW及びJAPEXの各寄附金において「特別寄附金」に多額の支援をいただいた方に対して、「世界切手まつり STAMP-SHOW2025」で功労表彰2名、メジャードナー2名、「第60回全国切手展 JAPEX2025」で特別表彰3名、メジャードナー1名を表彰した。

Ⅱ 管理部門

1. 会員事業

情報提供サービスの充実と会員のサポートが図れるような施策を実施し、そのメリットを高めていくことにより、会員の維持・拡大を図った。

(1) 会員の維持・拡大

当協会の事業を紹介した入会案内リーフレットを制作して、新規会員獲得に向けたキャンペーン施策を強化した。また退会防止に向けて、魅力ある会員サービスを積極的に提供した。

①春の入会キャンペーン&WEB会員入会キャンペーン(さくら日本切手カタログ、STAMP-SHOW)

実施期間:4月1日(火)~6月30日(日)、入会者:11名(うちSTAMP-SHOW2025会場2名)。

②秋の入会キャンペーン&WEB会員入会キャンペーン(JAPEX)

実施期間:10月1日(火)~12月24日(火)、入会者:15名(うちJAPEX2025会場4名)。

③ご移籍のお願いキャンペーン(普通会员から正会員、正会員から維持会員への移籍のお願い)

登録者:4名(前年6名)。

④『正会員会報』月刊/12回発行

(2) 会員情報管理システムの整備

会員情報を組織的に適正に管理してデータの円滑な利活用を行うため、より強固なデータ保護体制を設計するとともに、事務の簡素化・効率化及び情報提供サービスの高度化を推進した。

2. 交流事業

心豊かな潤いのある社会創造の理念に基づき、会員相互の交流と親睦を深めるとともに、郵便切手文化を国民の資源として共有・活用できる基盤作りを強化した。

(1) 新春交歓会

①東京・新春交歓会2026

会期:2026年1月12日(月・祝)、会場:YRイベントホール(豊島区)、参加者56名(2024年度54名)、主催:関東地方本部

②大阪・新春交歓会2026

会期:2026年1月10日(土)、会場:大阪キャッスルホテル(大阪市)、参加者25名(同32名)、主催:関西地方本部

(2) 郵趣大会

①東北郵趣大会2025in仙台(第32回)

会期:6月7日(土)・8日(日)、会場:仙台サンプラザホテル(仙台市)、参加者29名(同34名)、主催:北海道・東北地方本部、仙台支部

②関東郵趣大会2025in茂原(第33回)

会期:6月14日(土)、会場:茂原市総合市民センター(千葉県茂原市)、参加者52名(同87名)、主催:関東地方本部、茂原支部

③北海道郵趣大会2025in札幌

会期:9月27日(土)・28日(日)、会場:ホテルサンルート札幌(札幌市)、参加者35名(同57名)、主催:北海道・東北地方本部、札幌中央支部

(3) コミュニティ通貨「フィラ」

お金では表せない「善意」を交換するコミュニティ通貨「フィラ」の普及拡大と流通促進により、ボランティア活動の活性化を図るとともに、郵便切手文化サービスの循環によって生き生きとした心豊かな社会を実現した。発行数:40,025枚、流通数:643枚(流通率1.6%)。

2025年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2026年6月

公益財団法人 日本郵趣協会